

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2872300419 | | |
| 法人名 | 有限会社 豊地質 | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆたかの郷 | | |
| 所在地 | 兵庫県三木市宿原1263-86 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年2月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年3月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.wam.go.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人CSウオッチ |
| 所在地 | 兵庫県明石市朝霧山手町3番3号 |
| 訪問調査日 | 平成30年2月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、毎年クリスマスリースを、職員と入居者全員で協力して毎日作り(平成29年実績600個位)、ご家族、近隣、幼稚園、他の施設、病院、支援センターなどいろいろなところにプレゼントしている。
 2、代表取締役が地域の自治会役員を務めている。地域のボランティアの方と交流の場を持つなど地域とのかかわりが深い。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・小高い立地の住宅地内に位置し、事業所周圍や隣接の管理者自宅裏庭スペースに季節ごとに楽しめる木々や花が利用者のみならず訪問者にも楽しみを与えている。利用者居住環境は、食卓と隣接のリビングで談笑や利用者の可能な作業をしたりと理念や運営方針にもとづく家庭的な雰囲気へのケアを実践している。他の利用者も夫々が自主的に可能な範囲でお手伝いをしてもらう工夫を日常生活の中で取り入れている。
 【工夫点】・窓辺の木々に来る野鳥を観察しながら、リース作りを日常的に楽しみとしている利用者による種々アレンジした色とりどりのリースを事業所や好まれる利用者部屋などに飾り、ご家族や近隣利害関係先におすそ分けをしている。
 ・経営者が長年地域の自治会役員を務め、隣接の自宅裏には、憩で集え、眼下の広大な眺望や木々を楽しむ工夫をされ重度化しつつある利用者にも外出感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者が安心して、自分らしく暮らせる馴染みの場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関われる時間が多いという特性を生かしたケアを日々実践している。 | 地域密着型サービスの意義をふまえ、家庭的な環境のもとで人間としての権利を尊重し、安心と尊厳のある生活支援を目指す理念をリビングフロア掲示板に掲げ、日常的にチェックや声かけして共有し、事業所特性を活かしたケアに繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 月1回程度、地域ボランティアの方々や演奏会を催し、紙芝居も楽しまれている。自治会主催のふれあいの会に参加するなどのお付き合いをし、代表者は地域の役員を続けており地域との交流に務めている。 | 経営者が自治体の役員を続けており、民生委員中心の地域の団体主催のふれあいの会など活用し、また、民生委員参加による地域ボランティアによる大正琴演奏や紙芝居など月1回開催し、地域の一員として日常的な交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や定期的な演奏会などの場で研修や日頃の実践の経験から得たことを事例として説明して、認知症の方に対する理解を深めていただく。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族や地域の方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に生かしているまた、出席してくださる市職員の方と地域情勢などの情報交換をしている。 | 運営推進会議は、地区包括支援センター所長、地区長、民生委員、地域の方々の参画により定期的に関催し、利用者やサービスの現況報告にもとづき話し合い、意見を頂いたり情報交換を行い、これらをサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議にご家族の参画が得られる工夫が期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問な点や不可解な点など、常に市の担当者に相談を行っている。 | 創立10数年に至る過程で積み重ねてきた市や包括支援センターなどと日常的に密なる連携をとり、認知されている事業所特性を理解いただき、良好な協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全員で、身体拘束をしないケアの実践のために、いかに入居者の安全を確保するかを日頃から話し合っている。 | 期初策定の研修計画にもとづき全職員で身体拘束をしないケアを正しく理解し、日々の話し合いにても入居者の身体拘束をしないケアに留意して取り組んでいる。玄関施錠は日中フリーとしている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員全員が人権を尊重する旨を理解しており、お互いの意見が言い合えるような事業所を心掛けている。 | 研修計画にもとづき全職員で虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、それら理解の裏付けとして日々活動の中で抵触行動にならないようお互いが心がけ意見が言い合える雰囲気の中で防止に努めている。 | |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員は社内外の研修を通じ制度を学び必要な場合はケアカンファレンス等協議している。また事業所の目につきやすいところに市の相談案内を提示している | 権利擁護に関し社内外で学ぶ機会があり実践している。成年後見は現在は対象者がいないが必要時にはケアカンファレンスで協議し関係者と話し合いしている。また活用しやすいよう市の相談案内など掲示している。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 必ず利用者、家族に対し説明を行って理解、納得を図っている。やむを得ない場合を除き極力本人の意思決定、署名頂くよう努めている。 | 契約時など利用者、家族に対していねいな説明を行い理解・納得に努めており、今回アンケートで殆どの方が一緒に話し合っている回答をしている。重度でやむをえない場合を除き、利用者を交え説明をしている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようにしている。また、直接言いにくい方の為に、2カ月ごとに無記名の家族意見書を返信用封筒を同封しお送りしている。 | 管理者は隣に居住し、支援の職員も長く勤務されている方であり入居者と接する機会が多く家族の一員として家庭的な雰囲気の中で個々の尊厳を大事にし家族には、手紙や電話で密に連絡をとり、定期報告時無記名のご意見返信など工夫されている。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業所に自宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めている。 | 代表者や管理者自宅は隣接し管理者常駐の状況と親の介護経験を持つ職員がおり、経験の中から薬の管理、言葉使いなど案をだし協議し良い案は迅速に実践に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者が常駐しているので職員個々の状態を把握できている。家庭の事情に合わせて休暇を与えるなど職場環境の向上に努めている。社会保険労務士や市の担当者に相談している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を開催している事業所から、研修開催に関する情報をファクスで受け入れる体制をとっており、情報が届いたときには、職員に研修の参加を支援している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は、管理者や職員と意見を交換する機会を設け、同業者と交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族等周囲の支援者だけでなく必ず本人から直接困りごとや不安を探るよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻繁に電話連絡をして安心していただけるよう努めている。月1回管理者が手紙をしたため家族に近況を発信している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 計画作成担当者が介護保険のみでなくインフォーマルサービス、本人や家族のエンパワメントを探り他事業所への相談、紹介など公平な対応を心掛けている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 清掃やリース作りなどの作業を行うときは、必ず職員が入居者と一緒に行う、食事は同席するなど関係性の向上に努めている。また、一人ひとりのアルバムを作り、職員と共に過ごしていることが共有できるようにしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 電話や家族意見書で家族の意見を取り入れるように努め、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いている。 | | |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方からの面会については本人、家族の意向を踏まえ望まれた場合快く応じている。不定期ではあるが本人の馴染みの場所にお連れして関係継続を支援している | 本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないような地域の友人や知人の訪問など継続的な交流が出来るよう努めている。以前の担当者との再会を望まれる利用者の願いを叶えるなどつながりをとても大切にする支援を展開している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が入居者同士の関係をよく観察して食堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入居者全員が家族のように過ごせるよう支援している | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された方の情報収集を常に心がけ情報を得た時には電話など関係性を大切にしている。また家族に会ったときは気軽に声をかけている | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|---------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望や意向を全職員が言葉だけでなく非言語コミュニケーションでも把握するように努めている。困難な場合は本人の日頃の様子を慎重に観察し本人本位で検討を行っている | 日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通の困難な方には、一部の人の意見や考え方で決めつけられてしまうことがないよう、本人はどうかの視点に立ち朝の引継、都度職員間でコミュニケーションをとり検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に必ず支援者から情報提供を求め入居後は本人との会話や家族の面会のときの思い出話を傾聴し、新たな情報が得られたら記録、職員間で共有するなどこれまでの暮らしの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員全員で、ささいな情報でも共有して把握に努めている。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意見を取り入れ、主治医、訪問看護師と相談して、職員全員で話し合ってから介護計画を作成している。計画作成担当が本人、家族に対しリスク説明を行っている。課題に対し細やかにモニタリングを行っている | 日ごろの関りの中で、思いや意見を聞き反映させ、必ず本人の意思確認を行うようにしている。本人を良く知る家族や関係者と本人本位で話し合い、気づき、意見、要望を反映した介護計画を作成している。周辺症状への対応など行動チャートをもとに課題分析を実施している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子などや気づきを個別の介護日誌に随時記録し情報共有に努めている。毎朝ミーティングを行いケアの実践や計画の見直しに活かしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 他の事業所や地域の自治会と情報交換するなどしてさまざまなニーズに柔軟な対応ができるよう努めている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティアの方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めている。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討している | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるように、必要時には受診の付き添いを行っている | 本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。月2回は往診医による診察が受けられる。受診時は普段の様子や変化を伝えるようにしている。入居後も主治医の変更を勧めたりせず本人の今までのかかりつけ医や希望の病院への受診は家族同行でしている。 | |

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員が気付いたことや変化を訪問看護師に伝え適切な看護を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | (15) | ○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院した際安心して治療できるように又できるだけ早期に退院できるように病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的に面会に行き情報交換、相談を行っている。また管理者が定期的に訪問し病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時のダメージを極力防ぐため家族の同意を得て本人に関する情報やケアについての提供を行う。長期の入院は本人のダメージはもとより、家族にとっても負担となる。事業として対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。ホームを忘れてほしくないとの気持ちで毎日面会を心がけている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期の方針について本人、家族と話し合いの場を設け主治医との話し合いにも積極的に同席している。本人、家族の意向を尊重し事業所としてできる事、対応を丁寧に説明し同意を得よう努めている。職員や協力機関と方針を共有しチームとしての支援づくりに努めている。 | 重度化に向け早い段階で事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。本人や家族の意向を踏まえ、医師、訪問看護師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら取り組んでいる。重度化に向け看取りの場を積み重ねチームとして支援に努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員5名が応急手当普及員の資格を取得しており、急変時、緊急時の対処方法表を、目に付くところに設置しているまた、AEDを設置している | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行い、近隣住民へも災害時の協力を要請して、緊急連絡網に電話番号を記載と自動通報装置連絡先に登録させていただいている | 近隣住民に災害時の協力を依頼し、緊急連絡網記載と自動通報装置連絡先を登録させていただき、これらの準備のもと、年2回消防訓練を行っている。設備面では施設内にスプリンクラー設置、備蓄は隣接経営者宅の専用倉庫に保管している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員間で利用者の話をする時はイニシャルで話し排泄介助の際、他の利用者に悟られないように席を離れてから声かけをするなどプライバシーを尊重した対応を心がけている | 援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、職員で話し合い自己決定しやすい言葉かけや対応に配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が思いや希望を表したり自己決定できるようにその方の言動を否定的に捉えないように心がけている。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 清掃等の作業を行う時参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 緊急時を考え機能性を優先しつつその人らしい身だしなみやおしゃれを大切にしつつ職員は入居者全員との調和が保たれるよう気配りをしている。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事が楽しみなものになるように、食材について説明を行い、入居者と職員が共同でお茶入れ、台拭き、お箸配り、配膳などの出来ることを役割分担して、食事を行っている。 | 利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒に準備や食事の片づけなどしている。食欲を高めたり、食事への関心を引き起こすためお味噌汁、ご飯は事業所で作っている。週1回はフリーメニューとして、ちらし寿司やお好み焼き、甘夏ゼリーなど楽しく食事できるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしているまた必要な入居者は定期的に歯科衛生士の口腔ケア指導を受けている。 | | |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しているまた、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしている | 自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、職員で話し合いながらトイレでの排泄を大切にしている。一人ひとりのサインを職員が把握し、パットを使用するときは、どういう時間帯にどのようなものを使用するか根拠を明確にして本人の生活リズムにそった支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝、夕のテレビ体操、階段を利用した運動、ベッドでのストレッチ、近隣の散歩、庭掃除等の生活リハビリで予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている | 曜日と時間帯は決めている。が、声掛けして、本人の希望があった場合は毎日入浴して戴いている。入浴時間は本人の意思を尊重している。 | 週2回その日の利用者の希望を確認しながら入浴していただいている。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。スムーズで安全に入浴できるよう負担感や抵抗感のないように声かけや対応で工夫し、個々にそった支援をしている。 | |

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間安眠していただくように、日中リース作りや生活リハをしていただくようにしている休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくようにしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しているまた、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしている | | |
| 48 | | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活リハを行うときは、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担しているまた、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援している | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候を考慮して可能な限り、入居者同士の話題作りのために外出する機会を設けている。また、状態の良い入居者は、本人の希望で買い物、散歩などを付き添うなどの個別対応をしている | 一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、外出できるような個別の支援に向け工夫している。屋内だけではストレスがたまりやすく、一人ひとりが楽しめる支援に取り組んでいる。隣接の庭では、近所の方々が集う場となり利用者と一緒にお茶を飲むなどして地域住民との交流に繋げている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物等に行ったときは、職員が介助しながら、本人にお支払いいただくようにしている地域のイベントに参加して、たこ焼きなどの好みの物を買っていただきました。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 元旦は、入居者全員が、家族と新年のあいさつできるように電話して、その他の場合でも家族との電話は、必ず本人に代わって会話をさせていただけるよう支援している | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにベランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしている | 共用空間のフロアにはソファが配置され、居心地の良い安心感のある場所になるよう工夫されている。光や広さをうまく活用し家庭的な雰囲気をととても大切にしている。終末期を迎える家族には泊まることできる部屋を確保している。また緊急時に受入れられる場としても活用している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングとダイニングキッチンにそれぞれ、イスがあるので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっている。また、仲の良い入居者同士がくつろげるように居室にテーブルとイスを設置している | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓から野菜、果物の成長を楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をし、一人一人の状態に合わせてベッドの配置を換えたり必要に応じて介護ベッドを利用して戴いている。 | 居室は、居心地がよく、職員と本人が相談しながら温かい雰囲気をかもし出すよう工夫し取り組んでいる。部屋にはテーブルを置き、洗濯物を畳む、壁飾りのリース作りに熱心に取り組むなど利用者個々の想いを尊重し役割を活かしている。気の合う利用者同士がテーブルでお茶を飲むそんな関わりが日常的に行われている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを各所に設け、なるべく見守りで自立歩行をしていただいている。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしている | | |